

環境活動レポート

2024



2025 年 6 月 17 日作成

(対象活動期間:2024 年 4 月～2025 年 3 月)

亀田産業株式会社

目 次

1. 環境方針
2. 事業概要
3. 主要な環境活動計画の内容
4. 環境目標と実績
5. 環境活動の取組結果と評価および見直し
6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無
7. 代表者による全体評価と見直し結果

1. 環境経営方針

当社は、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、経営のあらゆる面で環境に配慮して行動する。

この理念の下、航空機部品の製造と家具販売などの企画、設計、製造、サービスの経営全般にわたり環境を考慮し、以下の方針を以って継続して環境保全活動を推進する。

1. 当社の経営理念を踏まえ、当社の活動・製品・サービスの性質・規模及び環境 影響に対して適切な環境経営システムを構築する。
2. 当社の事業特性が、環境に与える影響を的確に捉え、環境経営システムの継 続的改善を図る。
3. 環境関連法規、条例及び受入れを決めたその他の要求事項を遵守し、汚染の 予防に努め管理レベルの向上を図る。
4. 当社の環境側面に係る以下の項目を、環境保全の重要項目として優先的に取組む。
 - ①二酸化炭素排出量削減
 - ②廃棄物排出量削減
 - ③総排水量削減
 - ④化学物質使用量の適正管理
 - ⑤環境に優しい家具販売
 - ⑥自らが生産・販売・提供する製品及びサービスにおける環境負荷削減
5. この方針を達成するために、目標の設定と推進、教育・訓練の実施、代表者による 見直しの実施等、文書化された環境経営システムを構築し、有効な施策を展開する。
6. この環境方針は全社員に周知するとともに、外部からの要求に対し開示する。

2025 年 4 月 1 日

亀田産業株式会社

代表取締役社長 亀 田 寛

2. 事業概要

1. 会社概要

- ・会社名 : 亀田産業株式会社
- ・代表者名 : 代表取締役社長 亀田寛
- ・所在地
 - : 本社・家具部 〒321-0111 栃木県宇都宮市川田町 432
 - : 航空部 〒320-8564 栃木県宇都宮市陽南 1-1-11
- ・設立 : 1968 年 10 月
- ・資本金 : 2,000 万円
- ・従業員数 : 35 名
- ・敷地面積 : 2,500 m²
- ・環境管理責任者: 代表取締役社長 亀田寛
- ・連絡先電話番号: 028-656-3464 ・FAX番号 : 028-656-7089
- ・メールアドレス: info@kamedasangyo.co.jp

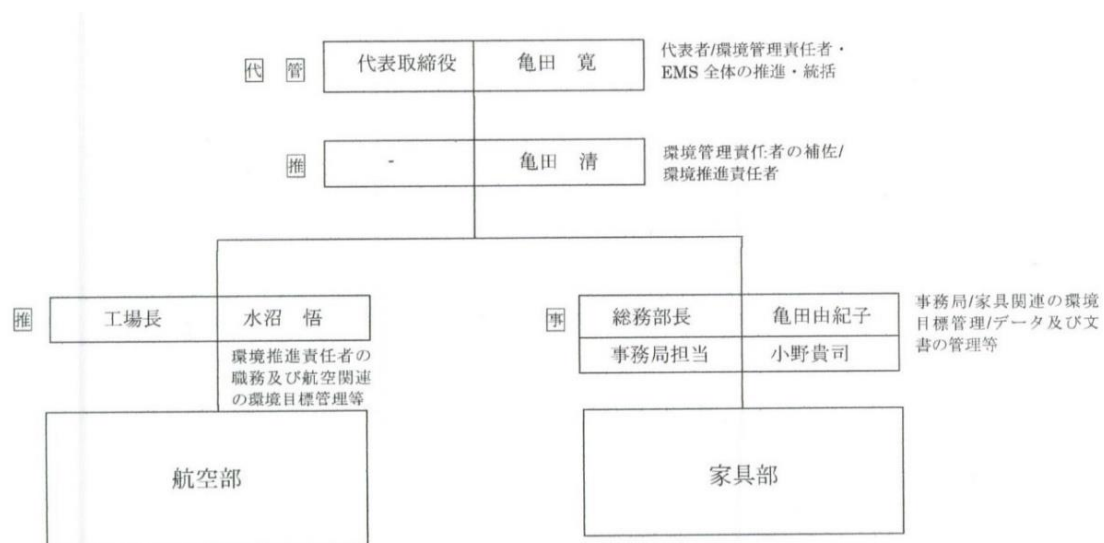
2. 沿革

- ・1956 年 富士重工業(現 SUBARU)取引開始
- ・1968 年 亀田産業株式会社設立
- ・1984 年 宇都宮市川田町(現在地)に店舗・工場建設
- ・1986 年 工場増設・FRP 関連部品受注
- ・1991 年 工場増設・ハニカムコア受注・Boeing 認定取得
- ・2005 年 JISQ9100 認定取得
- ・2006 年 NADCAP 認定取得
- ・2009 年 エコアクション 21 認定取得
- ・2019 年 家具販売の店舗建設・販売開始
- ・2021 年 航空部工場を(株)SUBARU 宇都宮事業所 17 棟に移転

3. 事業活動概要(環境活動は全組織・全活動を対象とする)

- ・航空部 : 航空部品製作・加工(非金属ハニカムコア・ゴム SEAL・縫製品)、治具製作(FRP)
- ・本社/家具部: 家具販売(環境に優しい木製家具)、家具修理、
EC 事業(ネット販売)、ワイン販売業、飲食店業
- ・事業年度 : 10 月～翌年 9 月、環境活動年度: 4 月～翌年 3 月
- ・レポート作成: 年 1 回(6 月)

4. エコアクション 21 実施体制の構築



5. エコアクション 21 のサイト情報

・航空部

ハニカムコアとは、蜂の巣のような六角形を隙間なく並べた構造体です。航空機用の構造材料として開発されました。その軽量ながら高強度である特性、加工のしやすさ、吸音性、遮音性、断熱性などが注目され航空機部品に採用されています。当社の航空部は、ハニカム部品の加工技術において約 30 年の実績があり、ハニカムコアの加工技術（切る / 曲げる / 繋げる / 整える）は、業界において高く評価されています。

・家具部

創業 50 年を迎えた老舗家具屋の「亀田家具」は、環境に優しい木製家具の販売と家具の修理で、宇都宮市を拠点に循環型家具販売業を営んでいます。家具店舗内の EC 事業（ネット販売）とワイン販売とカフェーは、お客様のライフスタイルをサポートしています。



航空機部品（ハニカムコア）



家具店舗「亀田屋」

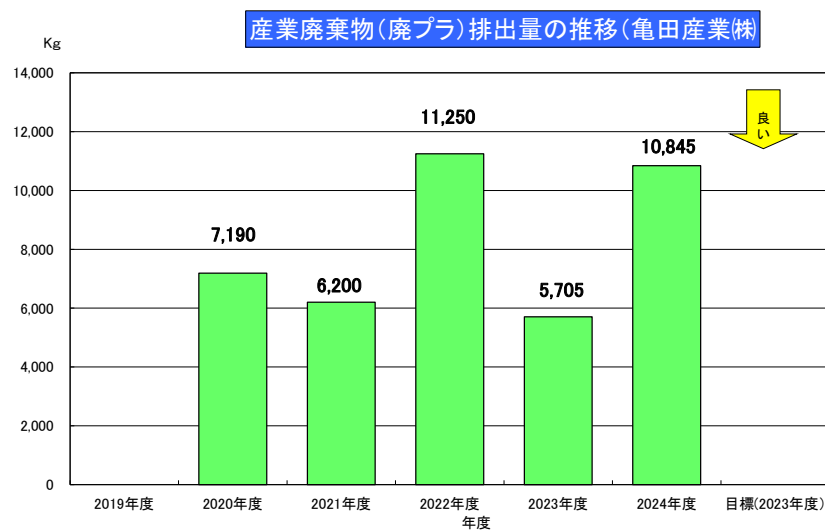
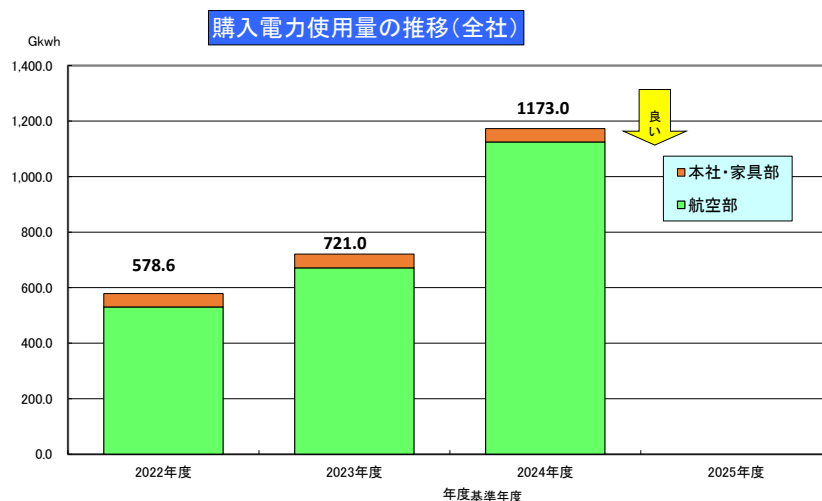
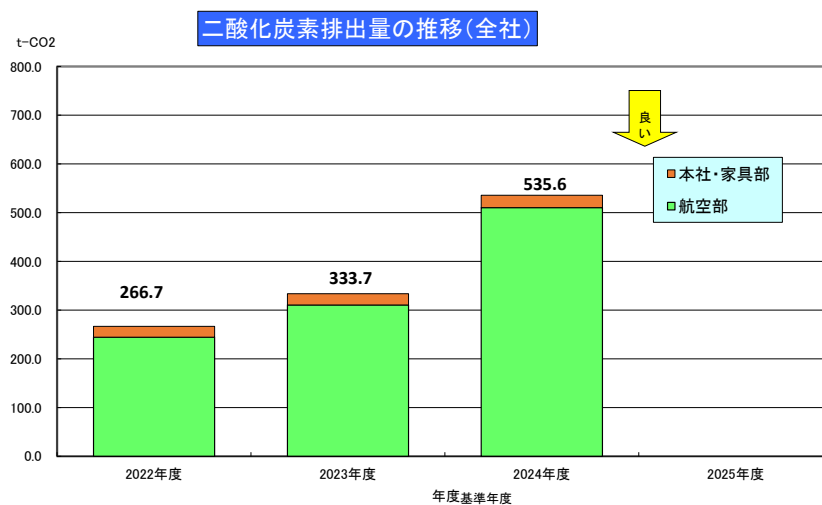
3. 主要な環境活動計画の内容（航空部、本社・家具部）

項目	環 境 目 的	課題(何を)	サイト	活動内容(どうやって)	責任者(誰が)
省エネルギー	◆ 省エネルギー／ 二酸化炭素の排出削減	○ 電気使用量の削減	航空部	工場#17棟の消灯管理と節電 エアコンの運転管理と電力削減 新規ハニカム成型装置の省エネ	工場長
			本社・家具部	家具店舗の節電活動 消灯スイッチ確認と節電の啓蒙	総務部長
		○ 化石燃料使用量 (ガソリン)の削減	全社	集中配送,停車中エンジン停止	事務局
		○化石燃料使用量 (灯油)の削減	全社	火力抑え目設定する,極力消す	事務局
廃棄物削減	◆ 廃棄物削減／ 再資源化推進	○ 廃プラ排出量の削減	航空部	航空機部品(ハニカム)の歩留り改善 航空機部品(ハニカム)再利用	工場長
		○ 分別の徹底による 再資源化		廃棄物は分解・分別して捨てる	工場長
		○食品廃棄物発生量の 削減	本社・家具部	飲食店業の食品廃棄物の削減	総務部長
		○混合廃棄物排出量の 削減		廃家具梱包材の削減 家具、ワイン梱包の軽量・簡素化	総務部長
省資源	◆ 水使用量の削減	○ 有効利用と節水の徹底	全社	こまめに止水するよう喚起する 水栓チェック	事務局
	◆ コピー用紙購入量の削減	○ コピー用紙使用量削減	全社	チラシ等裏面の利用/文書の裏面利用 両面コピーの促進	事務局
環境配慮	◆ 化学物質の使用量適正化	○ 支給される接着剤の使用量を把握し 無駄な増加を防止	航空部	接着剤使用量はスペックで厳格に使用量が 指定されているため、不具合によるスク ラップによる廃棄をなくすことを目標とする	工場長
	◆ 環境に優しい家具の販売	○ 環境に優しい家具を 販売する	本社・家具部	サステナブル家具の提案・販売 家具修理推進の修理と再利用	総務部長
	◆ 環境負荷を低減する 工程計画の策定	○エネルギー使用量削減 ○改善提案件数目標管理 ○環境ビジネス	全社	活動継続性配慮 改善シート活用 家具修理推進	社長
				定期的に教育を実施 社外情報などを社内報で水平展開	
	◆ 環境教育の充実	○ 環境意識の高揚	全社		社長

4. 環境目標と実績

項目	環境目的	サイト	課題(何を)	項目(単位)	達成基準(どこまで)				実績
					基準(BM)	目標		目的	
					2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	
省エネルギー	◆ 省エネルギー／二酸化炭素の排出削減	全社	○ 電気使用量の削減	目標使用量(単位:Kwh)	578,564	576,828	575,093	572,778	1,172,977
				CO2換算値*0.451(単位:Kg)	260,932	260,150	259,367	258,323	529,013
				削減率	最終年度1%	99.7%	99.4%	99.0%	
				削減目標絶対値(単位:Kwh)	5,786	1,736	1,736	2,314	597,884
				CO2換算値(単位:Kg)	2,551	783	783	1,044	269,646
		全社	○ 化石燃料使用量(ガソリン)の削減	目標使用量(単位:L)	2,238	2,231	2,225	2,216	2,283
				CO2換算値*0.0671*34.6(単位:Kg)	5,192	5,177	5,161	5,140	5,297
				削減率	最終年度1%	99.7%	99.4%	99.0%	
				削減目標値(単位:L)	22	7	7	9	58
				CO2換算値(単位:Kg)	14	4	4	6	136
		全社	○ 化石燃料使用量(灯油)の削減	目標使用量(単位:L)	55	55	55	54	0
				CO2換算値*0.0679**36.7(単位:Kg)	137	137	136	136	-55
				削減率	最終年度1%	99.7%	99.4%	99.0%	
				削減目標値(単位:L)	1	0	0	0	54
				CO2換算値(単位:Kg)	0	0	0	0	36
		全社	●総量値(全社の合計) ※CO2換算値: :Kwh*0.451	目標使用量	-	-	-	-	
				CO2換算値(単位:Kg-CO2)	266,538	265,738	264,939	239,884	535,626
				削減率	最終年度1%	99.7%	99.4%	99.0%	
				削減目標値		-800	-1,599	-26,654	269,088
廃棄物削減	◆ 廃棄物削減／再資源化推進	航空部	○ 廃プラ発生量の削減	廃プラ排出量(単位:kg)	11,250	11,216	11,183	11,138	10,645
				削減率	最終年度1%	99.7%	99.4%	99.0%	94.6%
				削減目標値(単位:kg)	1	34	68	113	538
			○ 分別の徹底による再資源化	目標使用量(単位:㎡)	72.1	71.9	71.7	71.4	
				削減率	最終年度1%	99.7%	99.4%	99.0%	
		家具販売部	○ 食品廃棄物発生量の削減	食品廃棄物発生量(単位:kg)			-		150
				削減率			-		
				削減目標値(単位:kg)					
			○ 混合廃棄物排出量の削減	混合廃棄物排出量使用量(単位:kg)					2
				削減率					
省資源	◆ 水使用量の削減	全社	○ 有効利用と節水の徹底	省資+29:38源	51.0	50.8	50.7	50.5	
				削減率	最終年度1%	99.7%	99.4%	99.0%	
				削減目標値(単位:㎡)	0.6	0.2	0.2	0.3	-129
				-	-	-	-	-	
				-	-	-	-	-	
	◆ コピー用紙購入量の削減	全社	○ コピー用紙使用量削減	目標使用量(単位:枚)	35,000	34,895	34,790	34,650	
				削減率	最終年度1%	99.7%	99.4%	99.0%	
				削減目標値(単位:枚)	350	105	105	139	-7,850
				-	-	-	-	-	
				-	-	-	-	-	
環境配慮	◆ 化学物質の使用量適正	航空部	○ 支給されるハニカム部品接着剤の使用量を確認し、無駄な増加を防止	PRTR対象化学物質使用量(単位:kg)	0	0	0	0	0
				削減率					
				削減目標値(単位:枚)					
	◆ 環境に優しい家具の販売	家具部	○ 環境に優しい家具を販売する	サステナブル家具販売件数(単位:件)					
				増加率	4	4	4	4	20
			○ 家具の修理・リサイクル	増加目標値(単位:枚)					
				家具の修理件数(単位:件)	4	4	4	4	
	◆ 環境負荷を低減する工程計画の策定		○ エネルギー使用量削減 ○ 改善提案件数目標 管理 ○ 環境ビジネス	増加率					
				増加目標値(単位:枚)					
	◆ 環境教育の充実	全社	○ 環境意識の高揚	2022年度までに2019年度比1%削減	-	99.7%	99.4%	99.0%	140%
				定期的に教育を実施する	2022/6/4	2023/6/5	2024/6/4	2025/6/4	2024/6/4

※二酸化炭素排出量、購入電力使用量、廃プラ排出量の推移



5. 環境活動の取組結果と評価および見直し

航空部

項目	環境目的	課題(何を)	項目(単位)	2024目標	2024実績	評価
省エネルギー	◆ 省エネルギー／ 二酸化炭素の排出削減	○ 電気使用量の削減	削減目標値 (単位:Kwh)	2,314	-605,341	×
		○ 化石燃料使用量(ガソリン)の削減	削減目標値 (単位:L)	9	-67	×
		○ 化石燃料使用量(灯油)の削減	削減目標値 (単位:L)	0	54	○
		● 総量値(上記3項目の合計) ※CO2換算値:Kwh*0.451 :L*0.0183*34.6	(単位:Kg- CO2)	1,050	-273,015	×
	コメント	従業員就労場所の環境改善のため、顧客主導でエアコンの入替・増設が行われ、稼働数が5台から10台に倍増した。熱中症対策法制化もあり今後必要なエネルギーコストと思われる。				
	見直し(次年度の計画)	3ヶ年計画の2年目であることから、大幅な目標修正は行わず目標達成のためのアクションを継続する。				
廃棄物削減	◆ 廃棄物削減／ 再資源化推進	○ 廃プラ排出量の削減	削減目標値 (単位:kg)	68	638	○
		○ 分別の徹底による再資源化	削減目標値 (単位:㎡)	0.3	31.7	○
	コメント	コロナ禍明け以降、航空部の生産量が増えたが、端材の利活用など歩留まり改善で廃棄量を抑えることができた。				
	見直し(次年度の計画)	引き続き廃棄量削減のためのアクションを継続する。				
省資源	◆ 水使用量の削減	○ 有効利用と節水の徹底	削減目標値 (単位:㎡)	0.3	-128.5	×
	◆ コピー用紙購入量の削減	○ コピー用紙使用量削減	削減目標値 (単位:枚)	139	-7,850	×
	コメント	昨年度から引き続き、本社トイレ給水を地下水から上水に変更した影響で使用量が増えた。				
	見直し(次年度の計画)	3ヶ年計画の2年目であることから、大幅な目標修正は行わず目標達成のためのアクションを継続する。				
環境配慮	◆ 化学物質の使用量適正化	○ PRTR対象化学物質の削減	PRTR対象化学物質使用量 (kg)	-	268	
		○ 支給される接着剤の使用量を把握 無駄な増加を防止	不具合発生率 (単位:%)	0	0	○
	◆ 環境負荷を低減する 工程計画の策定	○ エネルギー使用量削減 ○ 改善提案件数目標管理 ○ 環境ビジネス	2025年度までに 2022年度比	99%以下	140.3%	×
	◆ 環境教育の充実	○ 環境意識の高揚	定期教育実施	2023/6/5	2024/6/4	○
	コメント	従業員就労場所の環境改善のためエアコン設置台数が増え、主に電気エネルギーの使用量が増えた。				
	見直し(次年度の計画)	3ヶ年計画の2年目であることから、大幅な目標修正は行わず目標達成のためのアクションを継続する。				

本社・家具部

項目	環境目的	課題(何を)	項目(単位)	2024目標	2024実績	評価
省エネルギー	◆ 省エネルギー／ 二酸化炭素の排出削減	○ 電気使用量の削減	削減目標値 (単位:Kwh)	531		
		○ 化石燃料使用量(ガソリン)の削減	削減目標値 (単位:L)	11		
		○ 化石燃料使用量(灯油)の削減	削減目標値 (単位:L)	0	0	○
		● 総量値(上記3項目の合計) ※CO2換算値:Kwh*0.451 :L*0.0183*34.6	(単位:Kg-CO2)	247		
	コメント	本社・家具部においては、店舗内照明・空調設備のエネルギー消費が主となる。計画通りに削減が進捗している。				
	見直し(次年度の計画)	引き続き、目標達成のためのアクションを継続する。				
廃棄物削減	◆ 廃棄物削減／ 再資源化推進	○ 食品廃棄物発生量の削減	発生量 (単位:kg)	-	150	-
		○ 混合廃棄物排出量の削減	排出量 (単位:kg)	-	2	-
	コメント	本社・家具部のリサイクルできる廃棄物は、ありません。廃棄物発生量の抑制を継続する。				
	見直し(次年度の計画)	廃棄物発生量の抑制を継続する。				
省資源	◆ 水使用量の削減	○ 有効利用と節水の徹底	削減目標値 (単位:m ³)	1.8		
	◆ コピー用紙購入量の削減	○ コピー用紙使用量削減	削減目標値 (単位:枚)	213		
	コメント	本社・家具部においては、営業活動に伴う資源消費がある。計画通りに削減が進捗している。				
	見直し(次年度の計画)	引き続き、目標達成のためのアクションを継続する。				
	◆ 環境に優しい家具の販売	○ 環境に優しい家具の販売	サステナブル家具販売数(件)	4	20	○
		○ 家具の修理と再利用	家具修理件数	—	—	—
	◆ 環境負荷を低減する 工程計画の策定	○ エネルギー使用量削減 ○ 改善提案件数目標管理 ○ 環境ビジネス	2025年度までに 2022年度比	99%以下	99.4%	○
	◆ 環境教育の充実	○ 環境意識の高揚	定期教育実施	2024/6/4	2024/6/4	○
	コメント	リサイクル可能な天然木製家具の販売に注力し、計画通りに削減が進捗している。				
	見直し(次年度の計画)	引き続き、目標達成のためのアクションを継続する。				

6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

環境関連法規名称	対象の設備・設備・活動・物質	サイト	法規性及びその他要求事項内容 (当社に関連する主な内容)					順守状況チェック表			
			順守すべき要求事項	対応(届出・報告・測定など)				チェック日: 令和7年6月1日 チェック担当者: 小野貴司	順守判定に使用した書類・現場館で確認した客観的内容		
				届出	報告	測定点検	その他	適否			
廃棄物処理法	事業系一般廃棄物 (紙屑、可燃ごみ)	全社	①宇都宮市の一般廃棄物処理の条例に従う。					適			
			②委託する一般廃棄物収集運搬業者との契約書							・一般廃棄物収集運搬業者との契約書	
			③事業系一般廃棄物の保管場所				○			・一般廃棄物の保管場の現場確認	
	産業廃棄物 (廃プラ、混合廃棄物)	全社	①産業廃棄物保管場の保管基準						適		
			・産業廃棄物保管場の表示板(80cm×80cm)の表示				○			・産業廃棄物保管場の表示板 ・産業廃棄物の保管状態を現場確認	
			・産業廃棄物が飛散、流出なきこと。				○				
			・水銀使用製品(蛍光灯等)の保管場は、破損対策をする。				○				
			②産業廃棄物収集運搬業者への委託								
			・収集運搬業者との委託契約書、収集運搬業者の許可証				○			・収集運搬・処理業者との委託契約書 ・業者許可証の有効期限	
			・産業廃棄物収集運搬・処理業者との契約書、許可証は、契約終了の日から5年間保管				○				
			③産業廃棄物管理票(マニフェスト)								
			・産業廃棄物は、運搬を委託した業者に対し、廃棄物の種類ごとにマニフェストを交付する。				○			・マニフェスト(A票、B2票、D票、E票)の保管管理	
			・排出事業者は、マニフェストA票、B2票、D票、E票の写しを保管する。				○				
								・マニフェスト(A票、B2票、D票、E票)の送付有無の確認			
								・産業廃棄物管理票交付状況報告書			
消防法	少量危険物貯蔵取扱所	全社	・少量危険物貯蔵取扱所の設置・変更届出を消防署に提出する。					適	・少量のため該当せず		
	消防施設		・消火器、火災報知機などの消防施設の保守点検				○		・消防施設の保守点検記録		
			・緊急時の避難訓練(年1回)				○		・緊急時の避難訓練記録		
毒物及び劇物処理法	接着剤、溶剤(トルエン、MEK)の使用、保管	航空部	①毒物・劇物の使用保管					適	・毒物・劇物の使用保管の現場確認		
			・毒物・劇物の盗難及び紛失の防止				○				
			・毒物・劇物である旨を定められた通りに表示する。				○				
			・毒物・劇物が漏れたり流出しないように処置				○				
			・化学物質のSDSの入手								
フロン排出抑制法	空調機器(第1種特定機器)	全社	・空調機器(7.5kw以下)の簡易点検(3ヶ月毎)				○	適	・空調機の簡易点検表		
			・空調機器(7.5kw以上50kw未満)の定期点検(1回/3年の業者点検)				○		・空調機の定期点検報告書(業者)		
浄化槽法	浄化槽	全社	・浄化槽設置の届出					適	・浄化槽の設置なし。		
			・浄化槽の保守点検・清掃								
			・浄化槽の水質検査								
労働安全衛生法	有機溶剤(トルエン、MEK)	航空部	・作業環境測定(溶剤): 2回/年				○	適	・作業環境測定報告書		
			・有機溶剤の作業主任者の選任						○	有機溶剤の作業主任者	
			・有機溶剤の注意事項等の掲示						○	有機溶剤の作業場の現場確認	
PRTR法	PRTR対象化学物質 (エポキシプロパノール: 67, トルエン: 300、ジイソシアネート: 78)	航空部	①事業者の責務: 化学物質管理指針に留意すること。					適			
			・SDS(安全データシート)の入手・管理						○	PRTR対象化学物質のSDS	
			・PRTR対象化学物質の使用・排出量の把握と管理				○			PRTR対象化学物質の使用・排出量	
家電リサイクル法	家電4品目の排出 エアコン、テレビ(ブラウン管・液晶式・プラズマ式・有機EL式)、冷蔵庫・冷凍庫、洗濯機・衣類乾燥機	全社	・廃家電4品目の適正な引き渡し					適	・今年度該当なし。		
			・収集運搬料金及びリサイクル料金の支払い								

7. 代表者による全体評価と見直し結果

○2025 年 6 月 16 日に行われた「代表者による見直し会議」でのコメント

- (1) 航空部の工場移転から 4 年が経過し、エコアクションの活動も 2 巡目に入っている。移転後しばらくはコロナ禍の影響があり、十分な生産活動ができていなかったが、徐々に注文量が急回復し、それに伴う人員補充と体制整備を実施している。

受注量＝生産量の増加に伴い、光熱費はじめエネルギー使用量が増加傾向にある中で、顧客主導で従業員労働環境改善の動きが促進され、エアコン設置台数が増えたことによりエネルギー使用量も急激に増加した。

人材確保は元より、人を中心に考え、人間らしい温もりをもって社会貢献することをポリシーとしている。当社にとって、従業員を守る設備に投資することは必要不可欠なことである。

今後は、従業員の安全、健康や生産に影響を与えない範囲で、エネルギー使用量を削減できる方策を皆で話し合い、改善提案などで気軽に声を上げてほしい

- (2) 世界的な SDGS の動きもあり環境活動と企業活動は切っても切れない関係になっていることから、改めて全従業員が「環境活動」をベースにした企業活動(販売/ 生産活動)を行う必要がある。

- (3) 航空部移転に伴い、接着剤、溶剤の保管場所や廃棄物保管場所など運用上の変更が発生したが、問題なく維持できている。引き続き生産活動に影響を与えないよう気を付けながら、安全や従業員の健康、ひいては環境全般に配慮した活動を行うこと。

- (4) 工場移転以降、本社&家具部と、航空部の二拠点管理となっている。場所は離れているものの、同じ会社で、相互に影響を与え合う存在であることをよく認識して、航空部/家具部の環境担当間で良くコミュニケーションをとり、当社全体としてエコアクションを維持できるよう管理すること。

以上